

西南学院大学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー 及びアドミッション・ポリシーについて（案）

I 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

西南学院大学は、その教育理念と目的のもと、各学士の教育課程において、所定の期間在学し、卒業に必要な単位の修得を通じて、次に掲げる資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与する。

A. 知識・技能

幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。

B. 思考力・判断力・表現力等

学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。

C. 総合的な学修経験・創造性

地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。

D. 態度・志向性

自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。

II 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

（1）教育課程の編成方針

卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を涵養することを目指し、学士課程教育における共通基盤及び教養を育成するための共通科目群、及び各学士課程教育の専門性を育成する専攻科目群によって、教育課程を編成する。

授業科目の配置にあたっては、その順次性及び体系性を考慮し、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の育成に寄与する科目は、「総合的な学修経験・創造性」に寄与する科目に先行するよう配置し、「態度・志向性」の育成に寄与する科目は4年間にわたって配置する。

（2）教育課程の実施方針

授業科目の実施にあたっては、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」の修得を目的とするものについては、講義を中心とした授業形態を採り、「総合的な学修経験・創造性」や「態度・志向性」の修得を目的とするものについては、演習、実験、実習及び実技を中心とした授業形態を採る。いずれの授業形態においても、教員が適切な教材を用い説き明かす教授法や、学生の自律的な事前事後学習を促す教授法、教員と学生間及び学生間の協働のもと、学生の主体的・対話的な課題への取り組みを促す問題解決型の学習法、学生の能動的な研究・発表活動による学習法等を最適に組み合わせることによって、学生が到達目標に対し一定の水準以上に到達できるよう教授する。

Ⅲ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

「キリスト教を教育の基本理念とし、深遠な学術研究とそれに立脚した教育を基盤に、学術文化の向上に寄与するとともに、地域、日本、そして世界に貢献できる教養豊かで深い専門知識と創造性を備えた人を育成する（西南学院大学学則・第1条）」という西南学院大学の教育理念に共感し、そのために必要な次の資質・能力等を有する学生を求める。

〔知識・技能〕

- ・大学での専門的かつ学際的な学びに必要な基礎学力を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

- ・自分自身で問題を発見し解決する意思を有し、自らの考えを表現できる者

〔目的意識・意欲〕

- ・本学の建学の精神について理解しようと努め、本学における学びを遂行する高い意欲と意思を有する者
- ・地域社会および国際社会への興味・関心を有する者
- ・多様な価値観を理解し、高い協働性を有する者

<選抜方法>

（１）一般選抜

高等学校での教科・科目における学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な〔知識・技能〕〔目的意識・意欲〕〔思考力・判断力・表現力等の能力〕を有しているかどうかを評価して判定する。具体的には、「一般入試」「英語4技能利用型一般入試」「大学入学共通テスト利用入試（前期・後期）」、「一般・共通テスト併用型入試」という4種類の多様な入試制度により、多様な学びを展開してきた者を幅広く選抜する。

（２）学校推薦型選抜

高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を受け、小論文試験と面接試験の結果および出願書類（調査書、志望理由書等）を踏まえ、〔知識・技能〕〔目的意識・意欲〕〔思考力・判断力・表現力等の能力〕を総合的に評価して入学者を選抜する。

（３）総合型選抜

本学での学修に必要な〔知識・技能〕〔目的意識・意欲〕〔思考力・判断力・表現力等の能力〕に加えて、各学部・学科の教育において特に重要な要素も総合的に評価して入学者を選抜する。

（４）その他の選抜

諸外国において教育を受けた者に対しても、外国人入試、国際入試（帰国生・IB生）により、本学での学修に必要な〔知識・技能〕〔目的意識・意欲〕〔思考力・判断力・表現力等の能力〕を評価して入学者を選抜する。